

施工業者様へ 施工前にこの施工説明書を必ずお読みのうえ、正しく施工してください。  
この施工説明書と取扱説明書は必ずご使用になるお客様にお渡しください。

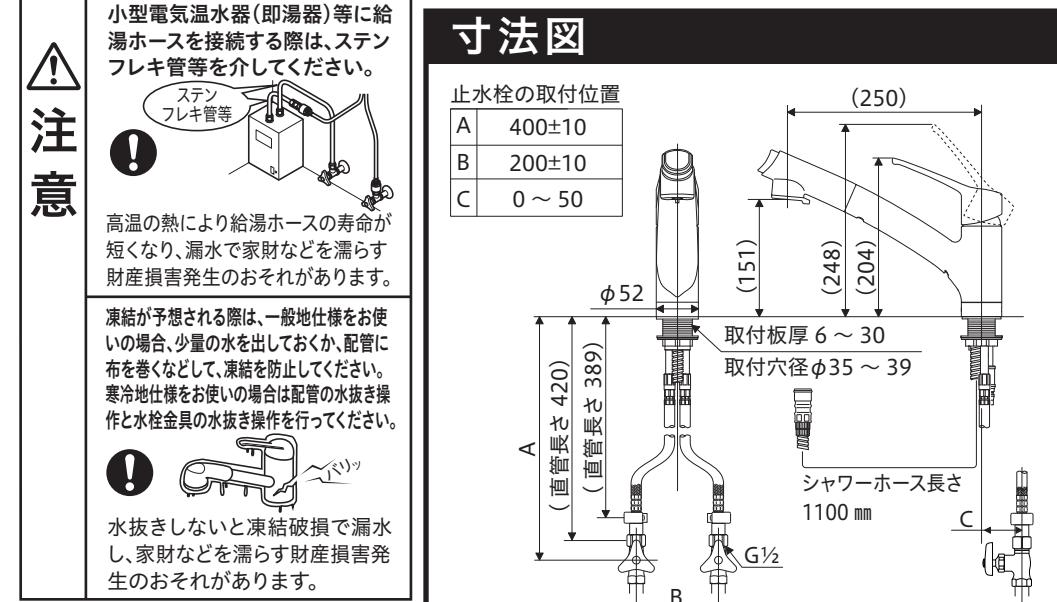
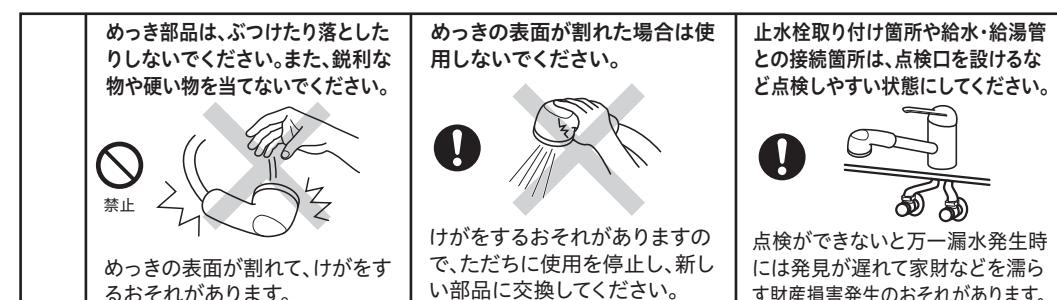
## 安全上のご注意

- ここに示した 警告 は誤った取扱いをすると、死亡または重傷に結び付く可能性があります。
- ここに示した 注意 は誤った取扱いをすると、傷害または物的損害に結び付く可能性があります。
- いずれも、安全に関する重要な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

この絵表示は、してはいけない「禁止」の内容です この絵表示は、必ず実行していただく「強制」の内容です

	湯水を逆に配管しないでください。 禁止	給湯温度は85°Cより高温で使用しないでください。 禁止	加工及び接合、市販浄水器具の取り付け等の改造はしないでください。 禁止
	水を出そうとしても、湯が出てやけどをすることがあります。必ず給水配管が右側、給湯配管が左側に配管されていることを確かめてください。	85°Cより高温でご使用になると、水栓の寿命が短くなり、破損して、やけどをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	器具が破損し、やけど・けがをしたり、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	給湯に蒸気を使用しないでください。 禁止	寒冷地仕様の場合 水抜きまみは水抜き以外の目的で開けないでください。 禁止	配管などの解氷のため解氷機をご使用の場合、水栓(給水・給湯管含む)には絶対に通電しないでください。 禁止
	器具が破損して、やけど、漏水のおそれがあります。	水抜きまみをいきなり開けますと高温の湯が出てやけどをしたり、湯水が噴き出して、家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	通電すると水栓や給水・給湯管が発熱し、破損して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
	器具に強い力や衝撃を与えないでください。 禁止	配管接続部をテーパねじに接続しないでください。 禁止	他所の水栓の使用等により水圧変動が起り、湯の使用中に湯温が急上昇することがあります。 禁止
	器具が破損し、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	テーパねじに接続すると、接続部がゆるんだり、パッキンが切れたたりして、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。	やけどのおそれがありますので、やけどのおそれのないところまで水圧変動をおさえた配管設備にしてください。

1ページ

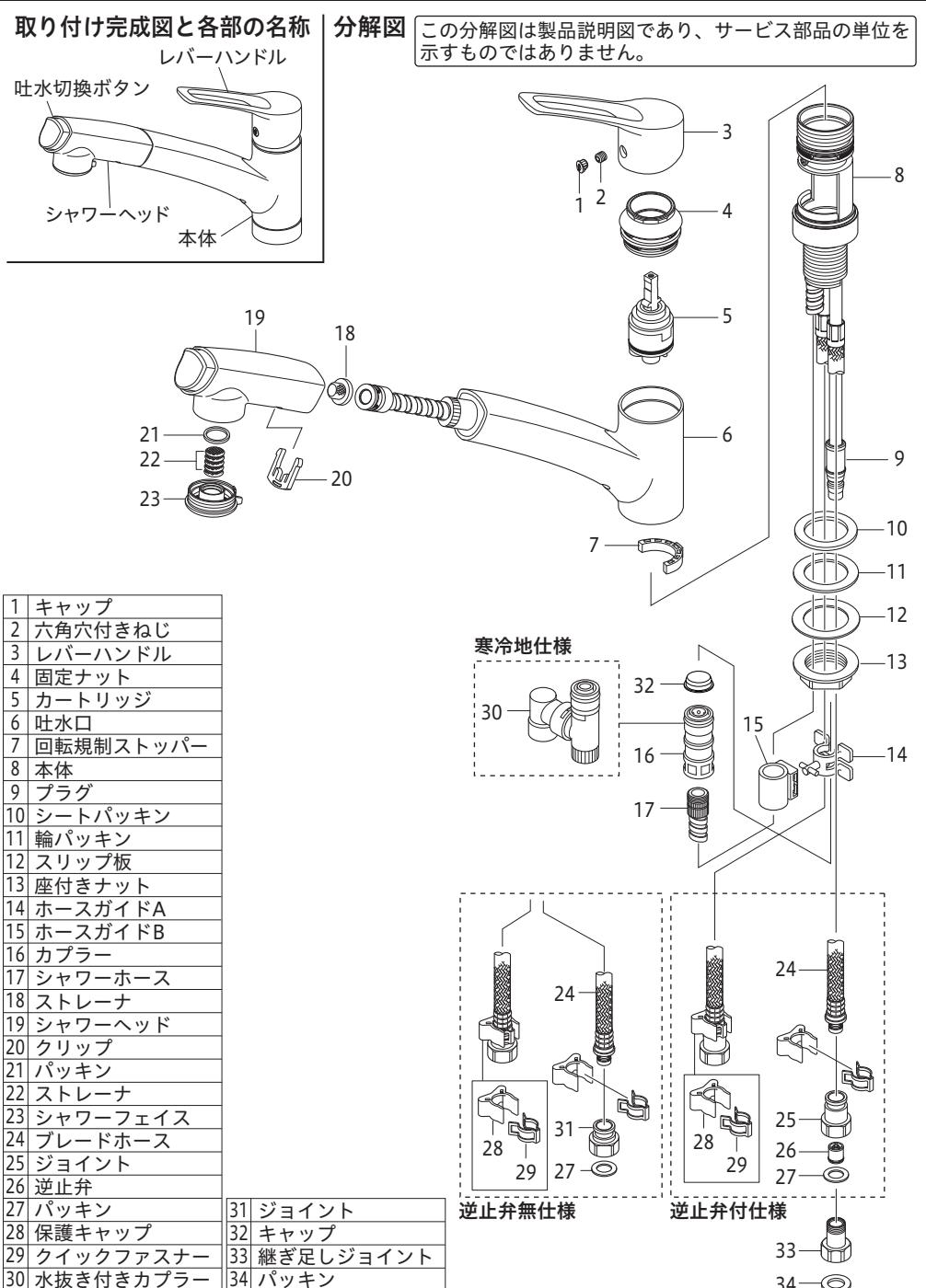


## 取り付け前に

- ① 使用水圧(A=(給湯器の最低作動水圧)+(配管圧力損失))
- (1) 瞬間給湯器との組み合わせ(設定条件 水温:25°C 給湯器温度調節:高温 吐水温度:42°C ハンドル全開)  
(比例制御式) 最低必要水圧:A+0.10MPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
- (2) 貯湯式給湯器との組み合わせ  
(給湯・給水圧力) 最低必要水圧:A+80.0KPa(動水圧)、最高水圧:0.75MPa(静水圧)
- ② レバーハンドルは全開で使用してください。給湯器が着火しない場合があります。
- ③ 給水圧力は給湯圧力より高くなるか、同圧になるようにしてください。
- ④ 給水圧力が0.3MPaから、0.75MPaまでは止水弁で流量調節してください。
- ⑤ 給水圧力が0.75MPaを超えるときは、市販の減圧弁で、0.2MPa程度に減圧してください。
- ⑥ 給湯器の給湯温度は、安全のため60°C給湯をおすすめします。
- ⑦ 給湯器からの配管は最短距離で配管し、配管には保温材を巻いてください。
- ⑧ 使用諸条件を加味して適正な能力の給湯器を選ばないと、適正な吐水量及び吐水温度が得られないことがあります。
- ⑨ 本製品は改造(加工および接合、市販浄水器具の取り付け等)によるトラブルについては、保証の限りではありません。
- ⑩ シャワーホースを伝て水がキャビネット内に浸入するおそれがあります。水受けトレーの設置をしてください。
- ⑪ 通水検査をしていますので器具内に水が残っている場合がありますが、製品には問題ありません。

2ページ

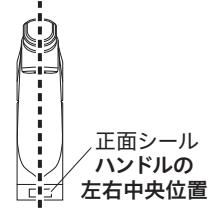
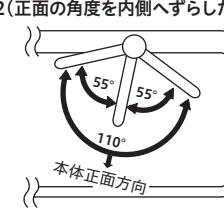
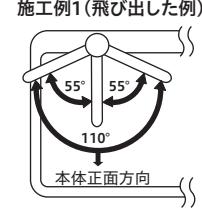
## 取り付け完成図と各部の名称 / 分解図



3ページ

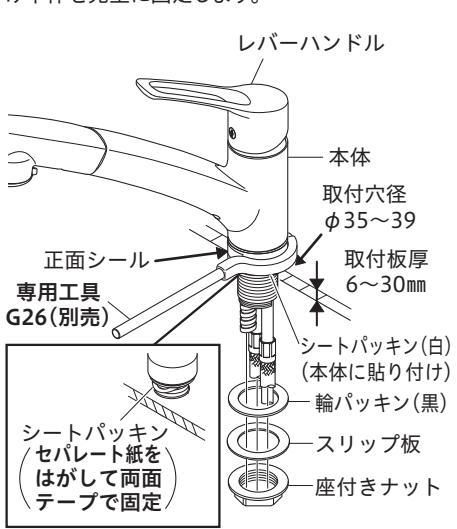
## 取り付け手順 1

- 1 給水管内の清掃  
配管工事後、必ず給湯・給水管内を清掃してください。
- 2 止水栓(別売)の取り付け  
給湯管と給水管の間隔は200±10mmで取り付けます。  
水受けタンクまたはトレーを設置する場合は、水受けタンクまたはトレーの寸法をご確認の上取り付けてください。  
止水栓はストレーナ付が最適です。  
寒冷地用は水抜き栓付き止水栓を取り付けてください。  
ストレーナ付 止水栓 水抜き栓付 止水栓 止水栓(別売)
- 3 本体の取り付け位置について  
取付位置によっては吐水口先端がシンクから飛び出す場合があります。(施工例1)  
正面位置をシンク内側へずらして調整することは可能です。(施工例2)  
その際、ハンドルの左右中央位置もずれますのでご注意ください。  
(ハンドルの左右中央位置は正面シールの位置となります)  
位置調整は、銅パイプまたはブレードホースが施工できる範囲内で行ってください。



## 本体の固定

- ① 取付穴周囲の汚れを取り除いたあと、本体にはり付けてあるシートパッキン下面のセパレート紙をはがし正面シールが正面にくるように本体を差し込みます。
  - ② 下図の順にパッキン類を差し込み座付きナットで締めつけ本体を完全に固定します。
- 【△注意】
- ・厚さ30mmを超える取付板に取り付けないでください。  
これよりも厚い板に取り付けた場合、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
  - ・セパレート紙は必ずはがしてください。セパレート紙をはがさず固定した場合、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。
  - ・専用工具G26(別売)を使用して本体を保持してください。シャワーヘッドや吐水口やレバーハンドルを持って締め付けますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。
- 【△注意】
- 座付きナットの締め付けは、専用工具KPS955(別売)で確実に行ってください。  
しっかりと締め付けられていないと、本体が緩んだり、がたつきが発生し、漏水して家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



4ページ

## 取り付け手順 2

### 4<sup>1</sup> 止水栓との接続(逆止弁付仕様、逆止弁無仕様共、接続方法は同じです。)

① ジョイントを止水栓に接続します。

【△注意】

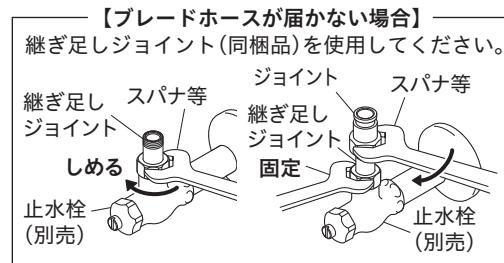
- ・ジョイントおよび継ぎ足しジョイントの接続は適切な工具(スパナ等)で締め付けてください。締め付けトルクの目安は約2000N·cmです。締め付け不足や締め付け過ぎると、漏水の原因となります。

- ・薄肉の接続管(ニップル等)にはジョイントを接続しないでください。

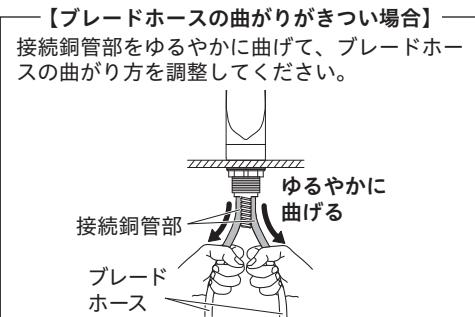
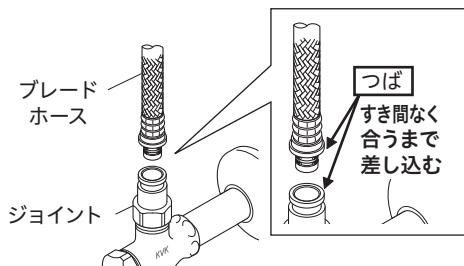
パッキンが切れ、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

- ・止水栓がしっかりと固定されていることを確認してください。

固定されてないとブレードホースが抜け、漏水の原因となります。



② ブレードホースのつばとジョイントのつばがすき間なく合うまで差し込んでください。



【△注意】

- ・銅管部を曲げ過ぎないでください。曲げ過ぎると銅管部がつぶれて亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

- ・ブレードホースはR60以上の大きな曲げ半径になるように曲げてください。鋭角に曲げたり、混合栓根元で曲げたりしないでください。(A図)

急に曲げたり折りたどりすると、亀裂や破損を起こし、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。

- ・上下戻り配管はやめてください。(B図)

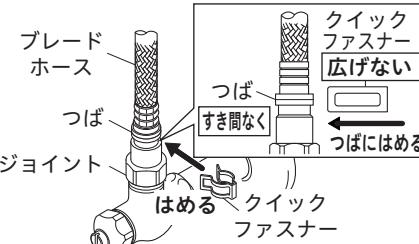
ウォーターハンマーなどでブレードホースが振動した際、屈曲部からの水漏れ発生の原因となります。

- ・ブレードホース同士などへの不要な接触は避けてください。摩耗による外傷で、ホース性能の劣化の可能性があります。

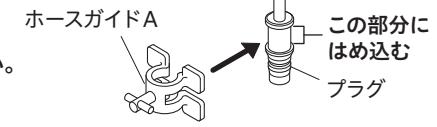
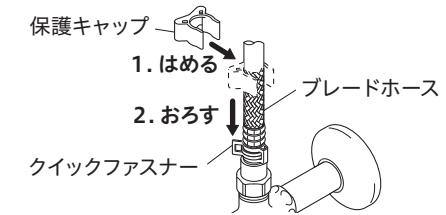
【お願い】ブレードホースは切断しないでください。

5ページ

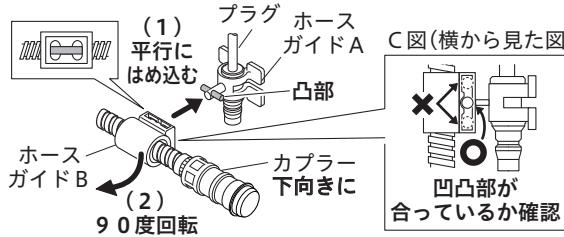
### 4<sup>2</sup> クイックファスナーを、ブレードホースとジョイントのつばにはめます。



- ④ クイックファスナーに保護キャップをはめます。この時、保護キャップはブレードホースにはめてから、クイックファスナーまでおろします。



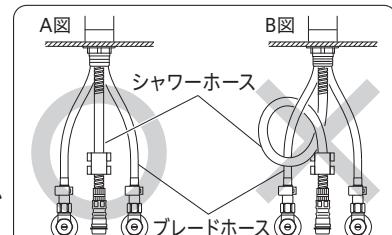
- ② (1) ホースガイドBを、ホースガイドAの凸部と平行になるように、ホースガイドAにはめます。  
(ホースガイドBは、一般地仕様の場合はホースに付いています。寒冷地仕様は同梱しています。)  
(2)(一般地仕様の場合)カプラーが下向きになるように、ホースガイドBを90度回転させます。  
(寒冷地仕様の場合)ホースガイドBを90度回転させ、シャワーホースを上から通します。



寒冷地仕様



- 【△注意】  
・固定した際、シャワーホースがA図のようにまっすぐ垂れ下がるようにしてください。  
B図のように、ブレードホースに引っ掛けたり、ひねったりしないでください。  
シャワーホースが破損し漏水により家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。  
【お願い】ホースガイドAとBを横から見て、凹凸部が合っているか確認してください。  
されている場合は合わせてください。(C図)



6ページ

### 5<sup>2</sup> (1) (一般地仕様の場合)カプラーとシャワーホースの接続が緩んでいないか確認してください。

緩んでいる場合はカプラー手締め後、工具で約30度増し締めしてください。

(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

(寒冷地仕様の場合)水抜き付きカプラーとシャワーホースを接続します。

水抜き付きカプラー手締め後、工具で約30度増し締めしてください。

(締め付けトルクの目安は約100N·cm)

【△注意】カプラー等の接続の際は、以下の内容に注意してください。

漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

\*カプラーの締め付け不足や締め付け過ぎ

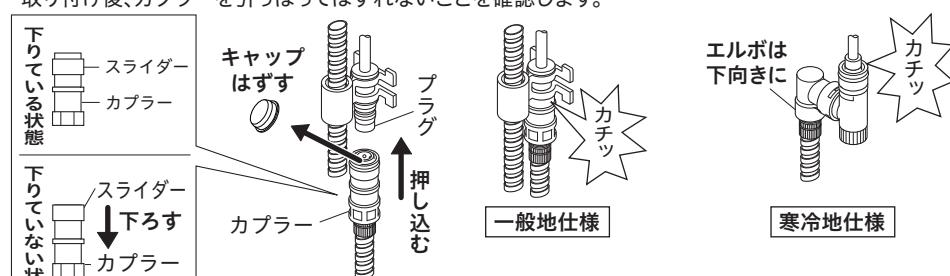
\*シャワーホースのセレーション部以外に工具をかけない

\*シャワーホースはねじらない



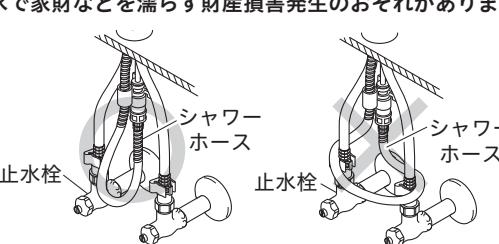
- ④ カプラーのキャップをはずし、スライダーを下に下ろしてから、本体のプラグヘカチッとき音がするまで押し込みます。(スライダーがすでに下りている場合もあります。寒冷地仕様の場合はエルボが下向きになっていることを確認します。)

取り付け後、カプラーを引っ張ってはずれないことを確認します。



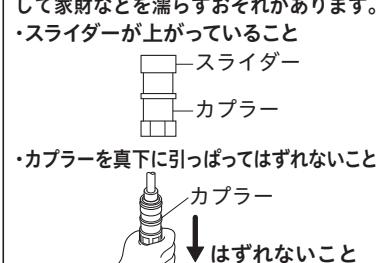
【△注意】

シャワーホースは止水栓に引っ掛けないで、給湯・給水パイプの間にぶら下げて取り付けてください。シャワーホースが引き出しにくくなったり、ホース損傷により漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。



【△注意】

カプラー取り付け後、確実に接続されているか、以下の確認を行ってください。確実に接続されていないと、漏水して家財などを濡らすおそれがあります。



【△注意】

流し台に水受け用 シャワーホースの出し入れを繰り返しても確実にタンクに収まるようにしてください。

タンクがある場合

(ホースとの接続の銅管部を少し曲げることにより調節できます。)

## 取り付け後の点検と清掃

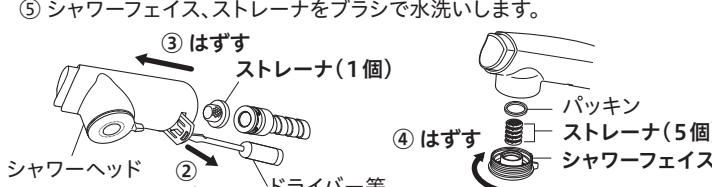
### 通水確認

- 【△注意】水栓を取り付け後、通水して湯水の出し止めを5~6回繰り返し、配管接続部及び水栓から水漏れがないことを確認してください。確認しないと、漏水で家財などを濡らす財産損害発生のおそれがあります。

### シャワーフェイス・ストレーナ清掃のお願い

シャワーヘッドのシャワーフェイス・ストレーナにゴミ等がつまりますと、吐水量が減ったり、きれいに流れなくなったりしますので、施工後必ず清掃してください。

- 1 湯水全開で20~30秒吐水させます。
- 2 ドライバー等でクリップをはずします。
- 3 シャワーヘッドをはずし、ストレーナ(1個)を取りはずします。
- 4 シャワーフェイスをはずして、ストレーナ(5個)を取りはずします。
- 5 シャワーフェイス、ストレーナをブラシで水洗いします。



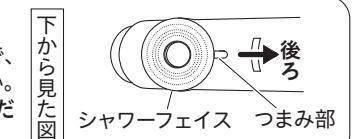
⑤ 清掃



はずした逆の手順で組み立ててください。

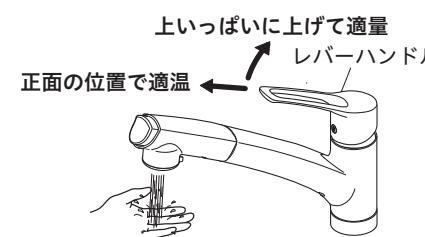
その際、シャワーフェイスを締め込む時、約2回転程締め込んで、シャワーフェイスつまみ部が後ろで止まるまで締め込んでください。

【お願い】止まるまで締め込んだら、それ以上締め込まないでください。破損するおそれがあります。



### 湯温・流量調節

レバーハンドルが正面を向いている位置で適温、全開吐水で適量になるように、止水弁で調節します。



### 故障かなと思ったら…

次のような現象は故障ではありません。修理を依頼される前にもう一度お確かめください。

➡ 取扱説明書「故障かなと思ったら…」参照

[水栓本体内部のメンテナンスをする場合]

- 【△注意】・修理技術者以外の人は水栓本体内部を分解しないでください。故障や水漏れの原因になります。

水栓本体内部のメンテナンスは、取扱店・販売店またはKVK修理受付センターにご依頼ください。

- ・メンテナンスは、専用工具G26(別売)を使用して本体を保持しながら行ってください。

シャワーヘッドやレバーハンドルを持ってはずしますと破損し、漏水のおそれがありますのでこれらは持たないでください。

8ページ

404006-02

7ページ